

第 106 回助産師国家試験分析報告

第 106 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、各設問の出題内容をタキソノミー分類および助産師国家試験出題基準目標別に分類した。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- I. 設問と解答肢の検討
- II. タキソノミー分類および助産師国家試験出題基準からみた出題内容のバランス
- III. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 106 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午後問題 6 を不適切問題、午前問題 15、47、および午後問題 11 を課題のある問題と判断した。詳細については「出題問題の検討」（表 1）を参照されたい。

全体的に、解答に必要な情報が適切に記述され、出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多かった。その一方で、出題のねらいが絞られていない問題、状況設定文や別冊の写真を参照しなくても解答できる問題、逆に必要な情報が不足している状況設定問題、明らかに誤りと思われる選択肢を含む問題、図を用いて極めて初歩的な部位の名称を問う問題（午前問題 28：会陰の部位を問う問題）もあった。また、設問文中に使用されている用語の表記ゆれ（午前問題 19：双胎児、午後問題 34：双生児）もみられた。

選択肢の総数は前回（第 105 回）の 128 肢から 1 肢増加し 129 肢であった。また、視覚素材を用いた問題は 4 問であり、前回（第 105 回）と同様であった。

II. 出題内容のバランス

出題内容のバランスについては「出題基準別にみた出題テーマ」（表 2）、および「出題基準目標別の問題数（選択肢数）と割合」（表 3）、「出題基準（小項目）別にみた出題数（選択肢数）と割合」（表 4）を参照されたい。知識の想起・推定によって解答できる問題（タキソノミー I・I' 型）が 57.3%と前回（第 105 回）の 57.1%より 0.2 ポイント増加し、複数の知識を統合して問題解決する能力をみる問題（タキソノミー II・III 型）は 42.7%と前回（第 105 回 43.0%）より 0.3 ポイント減少していた。

助産師国家試験出題基準目標は、以下の 4 群 24 項目に分類される。

【基礎助産学】

1. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。
2. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。
3. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。
4. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

【助産診断・技術学】

5. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要となる相談・教育について基本的な理解を問う。
6. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。
7. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。
8. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
9. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。
10. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
11. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
12. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。
13. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。
14. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
15. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産婦への支援について基本的な理解を問う。
16. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
17. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。
18. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。
19. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。
20. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

【地域母子保健】

21. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。
22. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。
23. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

【助産管理】

24. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

「出題基準目標別の問題数（選択肢数）と割合」（表 3）より、出題割合の多い順に、第 106 回は【助産診断・技術学】57.4%（第 105 回 61.7%、第 104 回 56.8%）、【基礎助産学】24.8%（第 105 回 23.4%、第 104 回 27.2%）、【助産管理】12.4%（第 105 回 10.2%、第 104 回 7.2%）、【地域母子保健】5.4%（第 105 回 4.7%、第 104 回 8.8%）となっており、【助産診断・技術学】の割合が減少し、【基礎助産学】【助産管理】【地域母子保健】の割合が増加していた。

またタキソノミー分類は、タキソノミーⅠ型 61 問（47.2%）（第 105 回 56 問、43.8%）、Ⅰ'型 13 問（10.1%）（第 105 回 17 問、13.3%）、Ⅱ型 29 問（22.5%）（第 105 回 23 問、18.0%）、Ⅲ型 26 問（20.2%）（第 105 回 32 問、25.0%）であった。タキソノミーⅠ型（知識の想起・推定によって解答できる問題）の割合が最も多かったことは、第 105 回と同様であったが、タキソノミーⅠ型（3.5 ポイント増）およびⅡ型（複数の知識を統合して問題解決する能力をみる問題）の割合が 4.5 ポイント増加し、Ⅰ'型（3.2 ポイント減）およびⅢ型（4.8 ポイント減）の割合は減少していた。

【基礎助産学】に関する問題の割合は、32 問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型 27 問、Ⅱ・Ⅲ型 5 問）で全体の 24.8% であった。その内訳では、「周産期の正常経過等の基本理解」に関する問題（3.6 ポイント増）の割合が最も多く、次いで、「女性の健康支援のための基本理解」に関する問題（0.7 ポイント増）、「リプロダクティブ・ヘルス支援の基本理解」に関する問題（2.4 ポイント減）の順であった。また、「基本概念と変遷、基本姿勢」からの出題（0.8 ポイント減）が 1 問みられた。

【助産診断・技術学】に関する問題の割合は、74問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型27問、Ⅱ・Ⅲ型47問）で全体の57.4%であった。問題数は、時期別では分娩期、産褥期、妊娠期、新生児期、乳幼児期の順に多く、また各時期（乳幼児期を除く）でみた正常からの逸脱・ハイリスクの問題は、産褥期（3.9ポイント増）の割合が増加し、逆に、分娩期（5.5ポイント減）、新生児期（3.4ポイント減）、妊娠期（1.6ポイント減）の割合は減少していた。

【妊娠期の診断とケアに関する問題】の割合は3番目に多く、13問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型6問、Ⅱ・Ⅲ型7問）で全体の10.1%であり、前回（第105回）の10.0%とほぼ同じ割合であった。そのうち、「正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク妊婦への支援」に関する問題は8問（6.2%）であり、第105回（10問、7.8%）と比べて減少したものの、「妊娠期の助産診断と支援」に関する問題の2倍に近い割合を占めていた。

【分娩期の診断とケアに関する問題】の割合は最も多く、22問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型10問、Ⅱ・Ⅲ型12問）で全体の17.1%であり、前回（第105回）の16.5%と比べて微増（0.6ポイント増）していた。そのうち、「分娩期の正常経過の助産診断と支援」に関する問題が16問（12.4%）と最も多く、第105回（8問、6.3%）と比べて倍増していた。次いで、「正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援」に関する問題が5問（3.9%）（第105回12問、9.4%）、「緊急時・搬送時の対応」に関する問題が1問（0.8%）（第105回1問、0.8%）となっていた。

【産褥期の診断とケアに関する問題】の割合は2番目に多く、15問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型2問、Ⅱ・Ⅲ型13問）で全体の11.7%であり、第105回（6.2%）・第104回（9.6%）と比べて増加に転じていた。そのうち、「正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援」に関する問題が9問（7.0%）（第105回4問、3.1%）と最も多く、次いで、「産褥期の助産診断と支援」に関する問題が6問（4.7%）（第105回3問、2.3%）であった。また、「周産期の合併症への支援」に関する問題（第105回1問、0.8%）は、出題されていなかった。

【新生児期の診断とケアに関する問題】の割合は4番目に多く、12問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型6問、Ⅱ型6問）で全体の9.3%であり、第105回（15.8%）と比べて激減していた。そのうち、「正常な経過からの逸脱及びハイリスク新生児への支援」に関する問題が7問（5.4%）（第105回11問、8.8%）と最も多く、次いで、「新生児の助産診断と支援」に関する問題が5問（3.9%）（第105回9問、7.0%）となっていた。

【乳幼児期の診断とケアに関する問題】の割合は最も少なく、7問（タキソノミーⅠ'型1問、Ⅱ・Ⅲ型6問）で全体の5.4%であり、前回（第105回）の7.0%と比べて減少していた。そのうち、「乳幼児の正常発達・発育の判断と支援」に関する問題と、「乳幼児の疾患と支援」に関する問題は同じ割合（2.3%）を占め、「低出生体重児、早産児の特徴・疾患・支援」に関する問題が1問（0.8%）となっていた。

【地域母子保健】に関する問題の割合は、7問（タキソノミーⅠ型・Ⅰ'型7問）で全体の5.4%であり、前回（第105回）の4.7%と比べて増加していた。そのうち、「母子保健行政と母子保健制度・施策」に関する問題が3問（2.3%）と最も多かったが、第105回（3.1%）と比べて減少していた。また、「母子保健の動向」に関する問題と、「助産師が行う地域母子保健活動の実際」に関する問題は同じ割合（1.6%）を占めていた。

【助産管理】に関する問題の割合は、16問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型13問、Ⅱ・Ⅲ型3問）で全体の12.4%であり、前回（第105回）の10.2%と比べて増加していた。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

「出題基準（小項目）別にみた出題数（選択肢数）と割合」（表4）、「出題基準目標別の問題数（選択肢数）と割合」（表3）より、タキソノミーⅠ・Ⅰ'型の主に知識を問うものは57.3%であり、第105回（57.1%）から0.2ポイント、第104回（55.2%）から2.1ポイント増加した。内訳をみると、タキソノミーⅠ'型の割合は前回（第105回）より3.2ポイント減少したものの、Ⅰ型が3.4ポイント増加していた。タキソノミーⅠ型の全体に占める割合が最多であったことは、前回（第105回）と同様であった。一方、タキソノミーⅢ型は4.8ポイント減少し、Ⅱ型は4.5ポイント増加していた。

出題内容では、助産実践の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常および正常からの

逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。特に、【助産診断・技術学】からの出題では、正常経過の助産診断と支援に関する出題の割合が、正常からの逸脱の予測と判断・ハイリスクの支援に関する出題の割合より上回っていたのは分娩期だけであった（8.5ポイント差）。それ以外の各時期では、正常からの逸脱の予測と判断・ハイリスクの支援に関する出題の割合が、正常経過の助産診断と支援に関する出題の割合より上回っていた（妊娠期 2.3 ポイント差、産褥期 2.3 ポイント差、新生児期 1.5 ポイント差）。また、女性の健康支援のための基本理解、周産期の正常経過等の基本理解、妊娠期の助産診断と支援、分娩期の正常経過の助産診断と支援、産褥期の助産診断と支援、正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク褥婦への支援、乳幼児の疾患と支援、助産師が行う地域母子保健活動の実際、助産業務管理・運営に関する問題など、今日の助産を取り巻く課題とニーズに合致した内容が出題されていた。

今回の出題問題のテーマ、タキソノミー分類別の割合の変化は、今日の助産を取り巻く状況に応じたものであり、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題として適切である。

総括

1. 出題問題の検討については、1問を不適切問題、3問を課題のある問題と判断した。
2. 全体的に、概ね設問には解答に必要な情報が適切に記述され、出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多かった。また、視覚素材を用いた問題は4問であり、前回と同様であった。
3. 出題のねらいが絞られていない問題、状況設定文や別冊の写真を参照しなくても解答できる問題、逆に必要な情報が不足している状況設定問題、明らかに誤りと思われる選択肢を含む問題、図を用いて極めて初歩的な部位の名称を問う問題もあった。また、設問文中に使用されている用語の表記ゆれもみられた。
4. タキソノミー分類別の出題問題の割合では、タキソノミーⅠ型（知識の想起・推定によって解答できる問題）の割合が最も多かったことは、第105回と同様であったが、タキソノミーⅠ型およびⅡ型（複数の知識を統合して問題解決する能力をみる問題）の割合が増加し、Ⅰ'型およびⅢ型の割合は減少していた。今回も前回（第105回）および前々回（第104回）と同様にCOVID-19の臨地実習への影響を考慮し、基本的知識の確認に重点を置いた出題傾向となったと考えられる。次回はⅠ型の減少およびⅢ型の増加が望まれる。
5. 出題内容では、助産実践の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常および正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。特に、【助産診断・技術学】からの出題では、正常経過の助産診断と支援に関する出題の割合が、正常からの逸脱の予測と判断・ハイリスクの支援に関する出題の割合より上回っていたのは分娩期だけであった。
6. 女性の健康支援のための基本理解、周産期の正常経過等の基本理解、妊娠期の助産診断と支援、分娩期の正常経過の助産診断と支援、産褥期の助産診断と支援、正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク褥婦への支援、乳幼児の疾患と支援、助産師が行う地域母子保健活動の実際、助産業務管理・運営に関する問題など、今日の助産を取り巻く課題とニーズに合致した内容が出題されていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。

以上